



2011～2012年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

例会日 / 毎週火曜日 12:30 例会場 / 豊川商工会議所 会長 / 山城康司 幹事 / 滝下 勲 会報委員長 / 土井昌司
事務局 / 豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889 H P / <http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ：心と身体を健康に

| | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|------|-------|------------|
| 本年度第19回 通算1227回 平成23年11月15日(火) | 出席報告 | 会員総数 | 出席者数 | 出席率 | 11/1 修正出席率 |
| | | 56名 | 37名 | 72.5% | 90% |

ゲスト：陸上自衛隊第10特科連隊長兼豊川駐屯地司令 山根寿一さん ビジター：メーカー受付21名

会長あいさつ

山城康司会長

外部講師の卓話



こんにちは。今日は、陸上自衛隊豊川駐屯地での例会です。今から17年前の平成6年に、当クラブが東三河分区IMのホストをしまして、その

時にこの豊川駐屯地の会場をお借りして開催しました。

倫理法人会の「職場の教養」の言葉を紹介します。仕事に定年はありませんが、人生に定年はありません。だからこそ健康で長生きをしたいものです。しかし年齢と共に、心身の変化は生じるものです。ボケないための9つの法則。人生に目標を持って生きよう。人から見られている意識を持つ。仕事や趣味に戯れよう。手と足と頭を面倒がらずに使おう。人のために役に立つことを喜ぼう。常に進歩、向上を目指して、人生に挑戦する覚悟を持つ。小さな発見にも驚きと感動を示そう。年齢を重ねることに誇りを持つ。生かされ守られ導かれているのだという感謝の念を持つ。人生を楽しく生きがいのあるものにするために、前向きな思いや行動を心がけ、未来を明るく切り開いていきましょう。

幹事報告

滝下 勲幹事

地区大会について
次回例会について

委員会報告

小野喜明会員
フェニックスのブースタークラブ継続のお願い

「東日本大震災に見た陸上自衛隊の誇り」

陸上自衛隊第10特科連隊長

兼豊川駐屯地司令 山根寿一氏

こんにちは。

私は8月からこの部隊で指揮を取らせて頂いております。この豊川駐屯地の隊員は本当に幸せ



だと思えます。このように地域の皆様からのご理解ご協力を頂いている駐屯地は、日本全国みてもそうそうありません。非常に有難く心から感謝を申し上げます。

今年3月に発生した東日本大震災。実際には現地には行っておりません。その時点では、東京の防衛省の中におりまして、全国の部隊を指揮するところにいました。現地に行っておりませんが、逆に、全国の部隊がどんな想いで災害派遣をやってきたのか非常に良くわかっているつもりであります。

陸上自衛隊は、編成定数は16万人です。全国を大きく5つの地区に区分しています。北海道の北部方面隊、東北地方の東部方面隊、関東地区の東部方面隊、中部地区は非常に広く、西は山口県、四国から東は愛知県までの中部方面隊、九州の西部方面隊の地区になります。この豊川駐屯地は、中部方面隊の中の第10師団に属します。第10師団の受持ち区域は、北陸3県と愛知、三重、岐阜の6県です。この豊川駐屯地には、第10師団の隷下部

隊として、第10特科連隊、第10高射特科連隊、第49普通科連隊があります。それ以外には、第6施設群など中部方面隊の直轄部隊があります。全国レベルの組織としては13コ部隊、2コ地本事務所があります。現在この豊川駐屯地には、1700名の隊員がおり、中部方面隊の中で2番目に大きいです。

陸上自衛隊の機能は、大きく3つ区分されます。戦闘機能、戦闘支援機能、後方支援機能があります。陸上自衛隊は、自己完結性と言われていています。自分たちで食事を作り、自分たちで燃料を入れることなど、すべて自分たちで行っているからです。師団というのは、それらの機能が全部入っている部隊なのです。部隊の機能能力を保有して、自己完結を持って、あらゆる作戦をなしうるパッケージが師団・旅団で、我々はこれを作戦機能部隊と呼んでいます。東日本大震災の時には、我々が行動するときには、このパッケージで行動をします。第10師団には、その3つの機能が揃っています。船の中には、当然、大砲やミサイルを持っています。戦う機能もあれば、隊員たちはこの中で生活をしています。お風呂もあれば厨房もあります。つまり師団は、この船と同じだと言えます。平素はバラバラで配置しています。ご飯を作る部隊は春日井に、通信部隊は名古屋の守山にあり、普段はバラバラでいざ何かあった時には、みんなで集合して活動します。それが師団です。

東日本大震災の時には、当然、師団も旅団も動きました。豊川駐屯地の部隊が動くときには、他の部隊も全部動いています。3月11日に大震災が発生し、その日の真夜中には東北に向けて出発をし、約3か月間活動しました。全体的な活動として、日本全国の部隊から師団、旅団を東北地方に集中させました。陸上自衛隊全体で7万人が活動をしました。7万人なら自衛隊員の半分ではないと言われるのですが、7万という数字は、我々ギリギリの人数です。師団と旅団が陸上自衛隊の中で直接働く部隊で、それ以外に学校で教育を受けている者もいるので、実際には活動には出ません。そんな中から7万人を出したのです。ですから、交代要員がいないです。普通は1週間もしたらヘトヘトになります。でも交代をさせることができません。我々は交代がないから頑張れとしか言えません。そんな中で隊員たちはよく頑張ってくれました。

今回の震災の大きな特徴は津波ですが、も

っと大変だったのは原子力です。福島第一原発事故です。陸上自衛隊には、放射能に対処の部隊はありません。例えば原子力が爆発した場合、そこから如何にして安全に逃げるかという機能は持っています。除染をしたり、放射能の値を測ったりする機能は持っていますが、放射能を発する物に対して立ち向かっていく能力は持っていません。あの時に、自衛隊で対処をと言われて本当に困りました。やったことがないのです。手探りで対処でした。知識さえもありませんでした。2~3日の間に、ありとあらゆる学者先生から色んなことを聞いて、放射能を防御できるものを緊急調達して対応していきました。

こんな非常に厳しい戦いをやってきた中で、本当に自衛隊はすごいと思いました。陸上自衛隊には60年の歴史がありますが、ずっと訓練、教育をやっていました。それが正しいのか正しくないのかわかりませんでした。でも、この震災の対応を見て、私は間違っていなかったと思いました。陸上自衛隊の誇りは、あらゆる国難を克服する組織力 民間国民企業団体からの献身的な協力 危険を顧みず立ち向かう自衛隊員 だと思っています。

最後に、自衛隊が抱える問題として、自衛隊員の若年退職制度です。階級により違いますが、ほとんど50代半ばで退職です。それは、自衛隊の活動を考えますと、体力がなければできません。アメリカの陸軍やイギリスの陸軍は若い年齢層が多く、陸上自衛隊はすべての年齢層が同じようにいます。米軍には強制退職制度がありますが、日本は終身雇用で、強制退職制度がありません。現在、年金の問題等で定年の年齢を引き上げるという話が出ていますが、我々はできません。50代半ばという年齢は、まだまだ働き盛りですので、彼らの第2の人生の道筋をつけるサポートをしていく必要があります。地域の企業の皆様方には、ご理解ご協力をお願いできれば思っております。是非ご協力をお願いします。

| | |
|--------------|---------------|
| クラブ目標：会員増強純増 | 2名 |
| クラブ目標：R財団寄付額 | \$100/人 |
| 現在の状況 | |
| 会員増強 | 純増1名 |
| R財団寄付額 | \$10/人 |
| 会報担当者 | 土井昌司会員、来山健一会員 |

このウィークリーは再生紙を使用しています。